

特集

指導者育成に取り組むクラブ



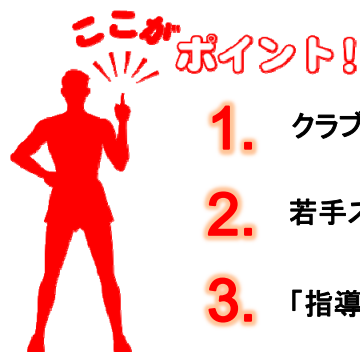
とまこまい・あそび塾

<北海道苫小牧市>



持続的なクラブ活動を行うためには、常に次世代の育成を念頭に、世代交代を図りながらクラブ運営に取り組むことが重要です。

そこで、指導者育成に取り組み、円滑な世代交代を行う基盤を整備している事例を紹介します。



1. クラブGMがLPT(リーダープロジェクトチーム)制度の導入を発案
2. 若手スタッフが積極的に教職課程を履修し、学校現場を理解
3. 「指導者の育成」だけでなく、企業と連携して「指導者の確保」にも着手



東日本復興支援伝リレー

1 クラブ概要

苫小牧東部地区には、多くの少年団・スポーツクラブ(組織に所属していない)が長く活動を続けていました。苫小牧東部工業地帯が隣接したことにより、市内の人口が西の方から沼ノ端地区へ移動し、地域の環境が多様化しました。宅地造成が行われ、若い従業員も多く、子どもが増えたことで、沼ノ端地区の学校数も増えました(小学校1校→4校、中学校1校→3校)。こうした人口増加など環境の変化から、単一少年団の活動では越えられない活動場所の確保、団員の取り合い、会費設定などの共通した問題が多くなりました。

平成12年に校区内の小・中学校、町内会の協力をいただき、地区の少年団が軸となり、スポーツ・文化活動を通じて、地域の発展と青少年の健全育成を目的として「沼ノ端地区少年少女スポーツクラブ連絡会」(以下、「クラブ連絡会」)を設立しました。当初、5種目5団体でしたが、その後、9種目13団体となり、平成20年度には、文部科学省の育成指定クラブ委託事業「創設支援クラブ」の指定を受け、平成22年4月より「自立支援クラブ」として活動を拡大しました。

平成20年2月20日に「とまこまい・あそび塾」が設立され、現在は陸上、野球、サッカーなどの少年団・クラブチームの他、タグラグビー、キンボール、スポレック、日本舞踊などのサークル活動が盛んに行われています。

2 LPT制度を導入し、「指導者の確保」へ始動

「クラブ連絡会」設立に尽力された島崎鶴松氏(現とまこまい・あそび塾GM)は地元で建設業を営み、長年にわたり地区の小学校のグラウンド整備を行うなど、地域や学校に積極的に関わっていました。「クラブ連絡会」では、陸上少年団の指導にあたり、全国規模の大会に出場する選手を多く輩出してきました。しかし、当時から「クラブ連絡会」に所属する団体の共通の課題として、「指導者の確保」が挙げられていました。

・以前は保護者が指導者→指導者交代のたびに指導内容が変わる弊害も

ほとんどの少年団・クラブチームでは、選手の保護者が指導者となることが多く、子どもの卒業とともに2、3年で指導者が入れ替わってしまいました。また、指導者が代わることで指導の質も変わり、子どもたちにとってもマイナスと感ずることもありました。この課題は、「総合型クラブ」へと移行するまで解決されることはなく、島崎氏は新しく設立するクラブの大きな柱として、LPT(リーダープロジェクトチーム)制度の導入を掲げました。



小学校体育授業講師派遣風景

3 若手スタッフが積極的に教職課程を履修

- ・競技知識以外に、学校の仕組みや先生の想い、児童心理学等を学ぶ
→「指導者の育成」

LPT制度の大きな目的は「指導者の育成」です。

もともと地域と密接に関わりのあったこともあり、クラブに対し、学校体育支援や中学校部活動外部指導者としての役割も求められるようになりました。学校現場で活動を進めるなか、島崎氏は「子どもたちと接する指導者は、競技のことだけではなく、学校の仕組みや先生方の想い、児童心理学などを学んだ上で、その成長に関わらなければならない」と強く感じたそうです。そうして、これから長く指導に関わるであろう若手スタッフに、教職課程の履修を奨め、クラブの研修費からその受講料を捻出しました。4年制大学を卒業していたスタッフは、2年間の履修期間を通して、学校教育における様々な知識を習得し、その学びを生かしながら現在も陸上を中心としたクラブ事業に関わっています。

4 子どもとの接し方が好転 →個々に合った指導・声がけ→指導に自信も

教職課程を履修したスタッフの、子どもに対する接し方には明らかに変化があったそうです。一人一人を見る目が変わり、以前にも増して、個々に合った指導、声がけができるようになりました。「本人も自信を持って指導にあたっているのが見て分かる」と島崎GMは話します。

また、体育支援で関わっている学校の校長先生からは、子どもや教職員に対する気配りができて、大変助かっていると好評を得ているようです。



ウィンター・サマースクール光景

5

「指導者の確保」に向け企業と提携

・企業の運動指導経験者が短時間クラブで指導

LPT制度のもう一つの目的には「指導者の確保」が挙げられます。子どもたちが少年団やクラブで活動する時間帯に2～3時間だけでも指導に携わってもらえるスタッフを確保するため、運動指導経験のある人材が籍を置く企業との提携を考えています。企業には指導で抜ける2～3時間も勤務と認めてもらい、その間の指導謝金をクラブが企業に支払うという仕組みです。

・提携企業数の増加、複数の常勤スタッフ確保を目指す

この提携は、先に挙げた教職課程を履修したスタッフが勤務する企業とクラブとの間で既に取り組まれており、今後はその数を増やして、安定的に指導者を確保できるようにしていきたいと考えています。

そしてゆくゆくは、教職課程を履修したスタッフが増え、指導の質が上がることでクラブの質も上がり、複数人の常勤スタッフを確保できるようなクラブ経営を目指しています。

6

他クラブへのアドバイス（島崎GMから）

・失敗は次へのステップ 萎縮せずチャレンジを

僕の辞書に失敗という文字はありません。チャレンジャー精神で何事にも全力を尽くし、そこで失敗と思うようなことも、それを次に生かせば、それは失敗にはなりません。クラブ運営ではP・D・C・Aサイクルが重要だと言われますが、人材育成でもそれは同じ。きちんと計画を立て実行して、検証した結果、失敗と思うことも、次に生かせばOK！—という気持ちで、若手スタッフにいろんな挑戦をさせます。がんじがらめでは萎縮して育ちません。それを見守る私自身も、チャレンジャーであり続けたいと思います。

（北海道体育協会 クラブアドバイザー 熊耳 雅美）

クラブ プロフィール

設立年月日 平成20年2月20日（平成27年一般社団法人認可）

所在地 北海道苫小牧市沼ノ端地区

運 営 会員数約370名（平成30年12月現在）、予算規模11,482,363円（平成29年度）

有給職員 1名

特 徴 主に6つの少年団・クラブ、7つのサークルが定期活動を実施しています。
年に数回、子どもから大人まで多くの方々が参加するイベントを実施し、
みんなで楽しく汗を流しています。

連絡先 一般社団法人とまこまい・あそび塾事務局
〒059-1305 苫小牧市沼ノ端中央1-1-24
TEL 0144-55-0940 FAX 0144-55-1818
URL <http://www.toma-asobijyuku.com>



地域環境美化推進活動



野球少年団へのかけっこ教室風景